

## はじめに

平素から、私ども株式会社かんぽ生命保険をご愛顧、お引き立ていただき、誠にありがとうございます。

ここに、平成22年度決算に基づきますディスクロージャー誌を発行し、当社の業績や取組みについて、ご紹介させていただきます。

本誌を通じて、当社に対するご理解を一層深めていただきますとともに、引き続き当社をご支援いただきますようお願い申し上げます。

平成23年7月

## 会社概要 (平成23年3月31日現在)

● 名称	株式会社かんぽ生命保険 JAPAN POST INSURANCE Co., Ltd.
● 事業開始日	平成19年10月1日
● 本社所在地	〒100-8798 東京都千代田区霞が関一丁目3番2号 TEL 03-3504-4411 (日本郵政グループ代表番号)
● 取締役兼代表執行役会長	進藤 丈介
● 取締役兼代表執行役社長	山下 泉
● 従業員数	6,815名
● 主な事業所	直営店80(統括支店13、支店67) サービスセンター 5
● 資本金	5,000億円
● 株主	日本郵政株式会社 100%



株式会社かんぽ生命保険  
本社(東京都千代田区)

※ 本誌は保険業法第111条に基づいて作成したディスクロージャー資料です。

※ 当社は、平成19年10月1日に開業していますので、平成19年度は、平成19年10月1日から平成20年3月31日までの半年間の業績を掲載しています。

## INDEX

トップメッセージ

8

## かんぽ生命について

1 経営理念	12
2 経営の基本方針	13
3 経営課題への取り組み	13
4 ビジネス展開	17
5 社会貢献活動への取り組み	20
6 風通しの良い組織づくり	23

## 事業の概況・業績

1 平成22年度決算の総括	26
2 健全性の状況	27
3 契約の状況	30
4 損益の状況	32
5 資産・負債の状況	34
6 資産運用の概況(一般勘定)	36

## 保険会社の運営

1 内部管理態勢	40
2 コンプライアンス(法令等の遵守)の徹底	44
3 利益相反管理への対応	46
4 個人情報の保護	47
5 反社会的勢力への対応	49
6 リスク管理体制	50
7 「お客さまの声」を経営に活かす取り組み	55
8 保険契約者等の保護の取り組み	57
9 お客さまを支える情報システム	58
10 ディスクロージャーの充実	59

## 商品・サービスの紹介

1 かんぽ生命の保険商品及び特徴	62
2 ご契約のお申込みから成立まで	70
3 教育・研修制度	72
4 契約期間中の情報提供	74
5 保険金のお支払いについて	76
6 引受・支払体制の強化	79
7 企業経営者の方へ	80
8 お客さまのご相談窓口	82
9 生命保険契約者保護機構	83

## 会社情報

85

## 業績データ

93

## 用語解説

172

## 生命保険協会統一開示項目索引

174

## 五十音順索引

176

株式会社かんぽ生命保険  
取締役兼代表執行役会長

## 進藤 文介

Profile (昭和19年11月1日生、東京都出身)

昭和43年 3月 東京大学法学部卒業  
昭和43年 4月 東京海上火災保険株式会社入社  
平成14年 6月 同社専務取締役東京企業第一本部長  
平成16年 6月 東京海上コンピュータサービス株式会社  
取締役社長  
平成16年10月 東京海上日動システムズ株式会社 取締役社長  
平成18年 9月 日本郵政株式会社 取締役  
平成18年 9月 株式会社かんぽ  
取締役兼代表執行役会長  
平成19年10月 当社取締役兼代表執行役会長(現職)



# 「最も身近で、最も信頼される保険会社」

まず、この度の東日本大震災により被災された皆さま、関係の皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

一日も早い復旧・復興と皆さまのご健康を心よりお祈り申し上げます。

当社では、東日本大震災発生当日に非常災害対策本部を設置し、この災害による被害の状況等について正確な情報の収集・把握を日々行い、被災地での支援策などについて迅速な実施に努めてまいりました。具体的には、被災されたお客さまに対して、災害免責条項の適用除外による死亡保険金の全額支払、保険料の払込猶予期間の延伸、保険金の非常即時払、普通貸付金の非常即時払及び貸付利率の軽減等の非常取扱いや特別措置を実施いたしました。また、被災地域への支援活動として、日本郵政グループが共同で開設した車両型郵便局で、保険に関するご相談の受け付けを行いました。

引き続き、パートナー(代理店)である郵便局株式会

社と連携した訪問活動や郵送でのご案内状の送付による請求勧奨を重点的に行うことなどによって、迅速かつ確実な保険金等のお支払いに全力で取り組んでまいります。

## 平成22年度の総括

さて、平成22年度を振り返りますと、わが国経済は、自律的回復に向けた動きが見られたものの、東日本大震災の影響による生産活動の低下、企業や家計のマインドの悪化等から、先行き不透明感が増しています。一方、生命保険事業を取り巻く環境を見ますと、個人所得の伸び悩みにより、生命保険の加入率は低下し、家計では保険の見直しや小口化が進展しています。また、少子高齢化や単身世帯化が一段と進展しており、生命保険市場におけるお客さまニーズは「死亡保障商品」から、がん、医療、介護などを保障対象とした

株式会社かんぽ生命保険  
取締役兼代表執行役社長

山下 泉

Profile (昭和23年2月1日生、東京都出身)

昭和46年 6月 東京大学経済学部卒業

昭和46年 7月 日本銀行入行

平成10年 4月 同行金融市場局長

平成15年 4月 日本郵政公社常務理事

平成17年 4月 同社総裁代理執行役員

平成18年 9月 株式会社かんぽ  
取締役兼代表執行役社長

平成19年10月 当社取締役兼代表執行役社長(現職)

平成21年 1月 日本郵政株式会社  
執行役員社長

## の実現を目指して

「生存保障商品」へのシフトが一段と進むなど、大きな構造変化が続いています。

このような経済情勢のなか、当社は、営業面では、個人保険の新契約について、保険金額ではやや前年度を下回ったものの、件数では3年度連続の増加となるなど、新契約実績の緩やかな回復傾向を維持しております。これは郵便局株式会社との連携による営業推進態勢が整備されてきた結果と考えております。

また資産運用面では、低金利及び円高・株安基調が続いていますが、引き続き保険負債と親和性の高い円金利資産を基本とする運用を行うことにより、安定的に収益を確保することができました。

この結果、経常利益は4,222億円、当期純利益は772億円と前年度(経常利益3,796億円、当期純利益701億円)に比べ増益となりました。また、ソルベンシー・マージン比率は1,821.6%(新基準によるソルベンシー・マージン比率は1,153.9%)、実質純資産は

6兆9,056億円となるなど、引き続き強固な財務基盤を確保しております。

平成22年度は、東日本大震災により約600億円の保険金支払を見込み、支払備金を計上したことなども含め、引き続き厳しい外部環境下にあったことを考慮に入れますと、全体としては概ね良好な成果をあげることができたと考えております。これもひとえに皆さまのご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

### 平成23年度の最重要課題

平成23年度は、東日本大震災で被災されたお客さまへの保険金等のお支払いなどに迅速かつ確実に対応するとともに、①お客さま接点の拡大等による営業の生産性向上を通じた新契約の拡大、②お客さまサービス向上に向けた事務・システム改革、③財務基盤の健全性維持、④経営管理態勢の充実・強化、⑤風



通しの良い組織づくりと人材育成、の「5つの柱」を経営上の最重要課題と位置づけ、取組みを進めてまいります。

このうち特に、新契約につきましては、当社のメインチャンネルである郵便局とのさらなる連携強化のもと、申込書作成に係るお客さまの負担軽減や引受事務の迅速化を目的に平成22年10月から平成23年8月にかけて段階的に全国展開を行っている「新契約システム」や、平成22年度から継続して実施している「心のこもったサービス」(ご契約内容のフォローアップ活動)などを通じて、お客さまサービスの向上に努めてまいります。加えて、お客さまニーズにお応えするため、加入限度額の引上げ、商品・サービスの改善等により、新たな商品・サービスの提供を実現していきたいと考えております。

事務・システムの面では、生命保険会社として最も重要な責務である適切な保険金等のお支払いをはじめ、引受、保全等各領域でも、正確かつ迅速でお客さまにとって利便性の高いサービスの提供を目指し、シ

ステム・インフラの整備等を含めた総合的な事務・システム改革を推進してまいります。

## 最後に

当社は、大正5年に創設された簡易生命保険の「簡易な手続きで、国民の基礎的生活手段を保障する。」という社会的使命を受け継ぎつつ、かんぽ生命の経営理念「お客さまとともに未来を見つめて、『最も身近で、最も信頼される保険会社』」の実現を目指して社員一丸となって取り組んでまいり所存です。また、今後もコンプライアンスの徹底を図るとともに、CSRの面でも、引き続き、NHK及びNPO法人全国ラジオ体操連盟と協力して、ラジオ体操の普及・促進に努め、皆さまの健康づくりを応援してまいります。

今後とも、ご支援・ご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。